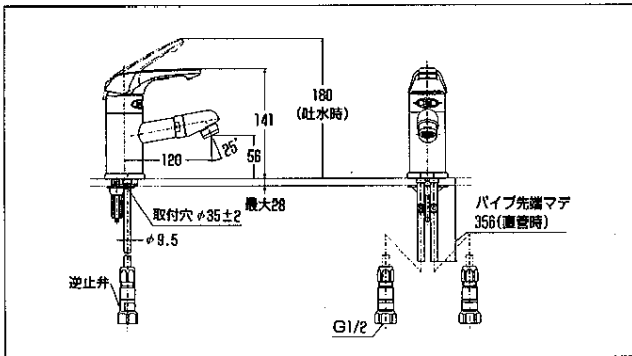


製品の機能が十分発揮されるように、この施工説明書の内容にそって正しく取付けてください。

完成図

TLJ31UIDX, TLJ31UIDKX
(一般用) (寒冷地用)



※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。

使用条件

1. 使用水圧

(1) 瞬間型給湯機と組み合わせる場合

給水圧力 { 最低必要水圧……(表参照)
最高水圧………0.74MPa(7.5kgf/cm²)

(設定条件)

- レバーハンドルは全開
- 吐水温度：38℃
- 給湯配管長さ：5m
- 給湯機が着火する下限の圧力とする
- 水温の高い(25℃)夏期に着火させることを想定
- 能力手動切替タイプの出湯温度は最高温度に設定
- 比例制御タイプの出湯温度：60℃

※能力手動切替タイプで、水温が高く着火しにくい場合は、能力を小さく切替えると着火しやすくなります。

器具入口部における最低必要水圧 (MPa {kgf/cm²})

| 給湯機タイプと号数 | | 最低必要水圧 | |
|-----------|--------------------------------|------------------|-----------|
| 能力手動切替タイプ | 12号 | A+0.29(3.0) | |
| 比例制御タイプ | TOTO カスタム制御方式 | 10号 | 0.06(0.6) |
| | | 16号 | 0.06(0.6) |
| | | 20号 | 0.07(0.7) |
| | TOTO トリコン制御方式(トリコン・コンタクト・アクティ) | 16号 | 0.06(0.6) |
| | | 20号 | |
| | | 24号 | 0.05(0.5) |
| | | アクティ スーパーアクティ | |
| | TOTO ハイトリコン制御方式 | 32号 | 0.06(0.6) |
| | | 21号 | 0.05(0.5) |
| | TOTO コマンド | 24号 | 0.06(0.6) |
| | | 21号 | 0.05(0.5) |
| | TOTO ハイコマンド | 24号 | |

注) 表中のAは給湯機の最低作動水圧を示します。
(比例制御タイプにはこの数値が含まれています。)

(2) 貯湯式温水器と組み合わせる場合

給水・給湯圧力 { 最低必要圧力……0.05MPa(0.5kgf/cm²)
最高圧力………0.74MPa(7.5kgf/cm²)

(3) 給水・給湯圧力はできるだけ同圧になるようにしてください。

2. 給湯に蒸気を使用しないでください。

3. 湯・水を逆配管しないでください。

給水ホースには○ラベルを、給湯ホースには△ラベルを張付けています。

なお給湯機からの給湯管は抵抗を少なくするため最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。

4. 水勢の調節及び器具の点検を容易にするために、必ず別途止水栓をご用意ください。

器具の取付け

1. 給水管内の清掃

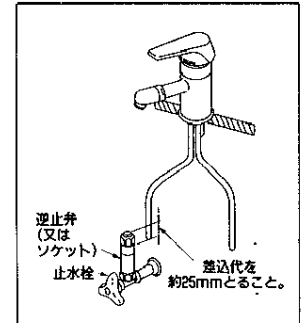
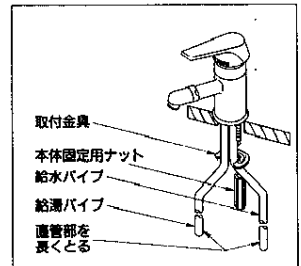
器具を取付ける前に必ず給水管内のごみ、砂などを完全に洗い流してください。

2. 混合栓の取付け

(1) 混合栓本体が正面を向くように仮固定し、給水・給湯パイプを、止水栓の取出し位置に合うように曲げて広げてください。このとき、できるだけ直管部が長くなるようにしてください。また、給水・給湯パイプがつぶれないように注意してください。

※パイプは回転しますがシールには影響ありません。

(2) 逆止弁(寒冷地用の場合はソケット)を止水栓に仮固定した後、給水・給湯パイプの必要長さをあたり切断してください。このときパイプの差込代は約25mm確保してください。



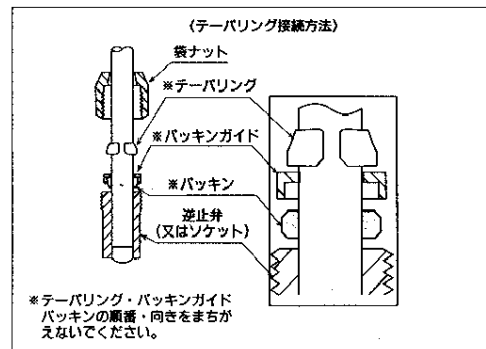
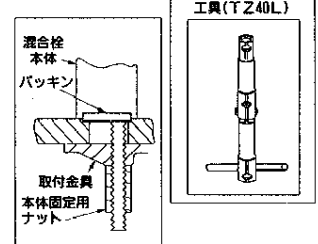
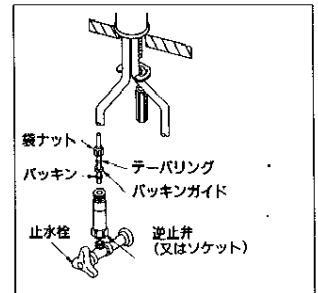
(3) 給水・給湯パイプに袋ナット、テーパリング、パッキンガイド、パッキンの順に入れて、逆止弁(又はソケット)を差込んでください。次に逆止弁(又はソケット)を止水栓にねじ込み、混合栓本体を本固定してください。固定には同梱の締付工具又は、別売のナット締付専用工具(TZ40L)を利用して本体固定用ナットを確実に締めて下さい。

※混合栓本体を固定する際、本体下のパッキンの取付位置をまちがわないように注意して下さい。

※水栓を固定する際、取付穴が水栓本体の中心にくるように取付けてください。

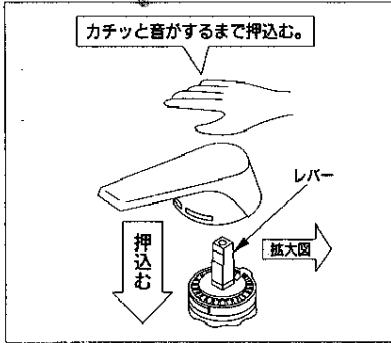
(4) 最後に、給水・給湯パイプを逆止弁(又はソケット)にしっかり差し込み、手締後1回転以上締付けてください。

注) 給水・給湯パイプの抜け防止のため給水・給湯配管は動かないように確実に固定してください。



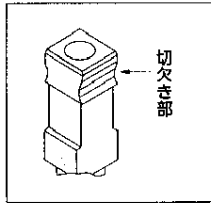
※テーパリング・パッキンガイドパッキンの順番・向きをまちがえないでください。

ハンドルの取付要領



このハンドルは、ワンタッチで取付けることができます。

【ご注意】



レバーハンドルとレバーの切欠きとの方向性に注意してください。
正面からみてレバーの切欠きは、両サイドにあります。
万一方向をまちがえて取付けた時は、ハンドルを一度引抜いて方向を合わせて再度押込んでください。
最後に、ハンドルが容易に抜けないことを点検してください。
※品番によっては図と現品の形状が一部異なることがあります。

使用上の注意

この商品は、ウォーターハンマー低減機構を採用しております。
レバーハンドルを速く操作しようとすると、抵抗感が発生し重く感じる場合がありますが故障ではありません。
レバーハンドルがロックして、水が止まらなくなった場合は、一度全開にして、再度ゆっくり開けてください。

寒冷地用の水抜方法

寒冷地用の場合は、器具内の水を抜くため、水抜コックを設けております。凍結のおそれのある時期に施工された場合は、水抜栓の操作とあわせて次の要領で水抜きをしておいてください。また、お客様にも水抜方法をご指導ください。

(水抜手順)

- (1)レバーハンドルを中央位置(湯側・水側の中間)で上げる。
- (2)水抜コックを開く。

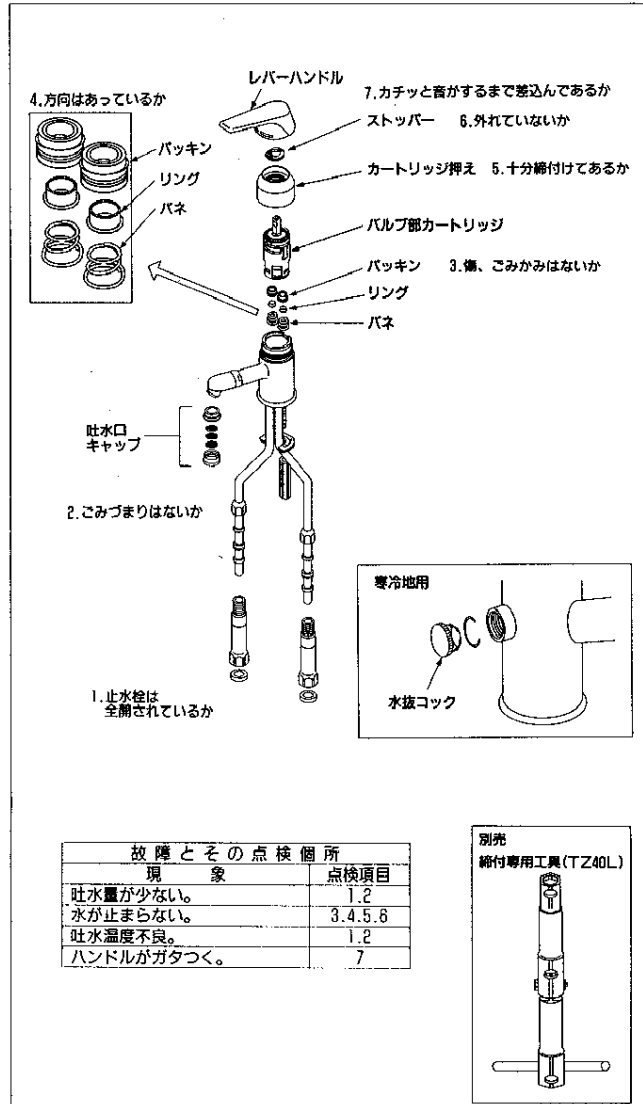
お手入れ

器具がいつまでも美しさを保つように、お客様にお手入れ方法をご指導ください。

1. ふだんは柔らかい布でふき、ときどきミネラル油やカーワックスなどをしみこませた布でふくこと。ただし、樹脂部に付着すると光沢を失うので付着しないよう十分注意すること。
2. クレンザーやみがき粉など粗い粒子を含んだ洗剤やナイロンたわしなどは使用しないこと。
3. 酸性洗剤はめっきを侵しますので使用しないこと。もしタイルを酸性洗剤で洗った場合は、すぐにタイル及び器具を十分水洗いすること。

分解と点検

取付後、万一故障した際は、次の要領で分解および点検を行ってください。

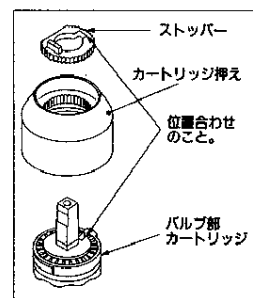


【ご注意】

バルブ部カートリッジ内部は精密加工された特殊セラミックバルブを組立調整しておりますので、絶対に分解しないでください。

【点検時の注意】

カートリッジ押えは、手締めにて締め付け、工具は使用しないでください。
再セットされる際に、ストッパーを組込む時は、カートリッジ側凸部とストッパー側凹部を合わせて押込むこと。
その際カートリッジ押えの内側の歯とストッパーの外側の歯が合わない時は、カートリッジ押えを締め込む方向にて歯を合わせるように調整してください。



【工具について】

- 施工時、締付工具(TZ40L)がない場合、下記の一般工具でも取付けは可能です。
- (1)ソケットレンチ(対辺13mm用)
 - (2)T型レンチ(同上)
 - (3)ナットスピナーハンドル(同上)

※同梱の取扱説明書は、必ずお客様にお渡しください。

手渡できない場合は、工事完了後ハンドルなどに吊り下げておいてください。

再生紙を使用しています。